

平成8年1月20日 発行

— 第97号 —



# 議会

ひがしなるせ

# だより



スキー場から岩井川・田子内、鳥海山を遠望

## もくじ

- ・議長、年頭のあいさつ…………… 3 ページ
- ・村長・教育長の行政報告…………… 3 ページ
- ・一般質問 (伊勢谷政雄議員) …… 4 ~ 5 ページ
- ・一般質問 (富田 義行議員) …… 6 ~ 7 ページ
- ・一般質問 (高橋 檜雄議員) …… 8 ページ

## もくじ

- ・常任委員会レポート (産建) …… 5 ページ
- ・ “ (総教民) …… 5 ページ
- ・一般会計補正予算の質疑…………… 9 ページ
- ・臨時会報告…………… 9 ページ
- ・私もひとこと (東成瀬村商工会事務局長・阿部聡さん) …… 10 ページ

発行  
東成瀬村議会

編集  
議会広報編集委員会

〒019-08 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字仙人下30-1  
☎(0182)-47-2111

# 一般会計予算 38億9千7百22万円に

ジュネス栗駒ハーミットランド事業や職員の給与改定などに追加



初めての冬の交流となった  
岩城町との海の子山の子交流会

## 12月定例会

こんなことが  
決まりました

十二月定例会は十二月二十日から二十二日までの会期で開かれ、職員の給与に関する条例改正や補正予算案など七件が提案。最終日には議員発議による意見書八件と決議一件が提案され、すべての議案などが満場一致で原案可決となった。

### 12月定例会の提出案件と主な内容

- 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正
  - ・ 国家公務員の給与改正に準じて行われた改正で、役場などの職員の給与を、一部の手当を除いて平成七年の四月にさかのぼり、平均で一・〇七%引き上げるといった内容であった。
- 平成七年度の一般会計補正予算  
(九ページに、主な質疑を掲載している)
- 国保特別会計の事業勘定と施設勘定の補正予算
  - ・ 療養給付費の保険者負担の追加などが主であった。
- 簡易水道特別会計補正予算
  - ・ 給与改定のほか修繕費などが追加された。
- 老人保健特別会計補正予算
  - ・ 医療給付費の追加が主な内容であった。
- 老人福祉施設(幸寿苑)運営特別会計の補正予算
  - ・ 給与条例の改正に伴う予算の補正であった。

# 年頭のあいさつ

明けまして  
おめでとうございます  
皆様には、お元気で新しい年を  
お迎えのことと心からおよろこび  
申し上げます。  
経済不況、稲作の不作など厳し  
い昨年でありましたが、議会は選



議長 古谷 正久

挙によって大きく新旧の交替をし  
て、村民皆様の付託に応えるべく  
がんばっております。  
当面は、十一年度までの「村に  
住む総ての人が、健康で幸せな生  
活をおくることのできる活力ある  
村づくり」を目標に作られた、過  
疎地域活性化計画の実行です。  
つまり、自然を活かした観光・産  
業振興・高齢者福祉・若者定住の  
環境整備など、多岐にわたる計画  
実現に向け村と連携してゆきたい。  
本年も村民皆様の  
ご多幸を心からお祈りします

# 12月 行政報告 定例会



村長

## 米の減収が予想以上

### 3月定例会で対応策を

- ▼本年は作況指数が九十一と全国一低い異常気象による減収のなかで、食糧法に代わる食糧法のもとで流通機構の大転換があった。
- ▼一方日本経済は、依然として明るい兆しが見えず、大型補正による景気対策も効果が出ていない。
- ▼一日も早い不況からの脱出を期待している。
- ▼本年の村の米の減収量は予想以上で、水稲共済金も百二十九戸に一千六百八十八万円余りとなるようだ。
- ▼村としては、制度資金への利子補給・種子確保への補助など、実績を見ながら三月定例会で対応、減収に
- よる村税対策については、来春の民税申告時点で検討、勘案してゆきたい。
- ▼由利市場に移った牛の市場は市況の好転もあって、十二月市場に村から十三頭を出陳、これに高値が付いており今後に期待している。
- ▼トマトは八千八百六十二万円余りの実績となった。今は三月いっぱいをめどに十五人がアスパラ菜の栽培と出荷に取り組んでいる。
- ▼今秋から社会問題化した食糧費に関しては全国的な話題となりマスコミからの取材もあった。
- ▼これは、現行日本の社会制度組織機構から、秋田県や我村が置かれている状況を打破するための情報収集や計画推進には大事な一面であったと理解している。
- ▼しかしそのすべてを善しとするのではなく、これまでの経過に検討を加え、果などの連携を保ちながら善処してまいりたい。
- ▼去る十月の国勢調査概要では、世帯数が二十八世帯減少して八百八十五世帯、人口は百六十六人減少して三千五百六十八人ということだったが、定住関連には今後も努力して行きたい。

## 教育長

平成九年に椿川小と大柳小を統合  
平成八年は準備の年としたい



- ▼十月のマーチングフェスティバルは秋空のもと十二団体・五百十七名が参加して行われた。
- ▼屋外でのマーチングはあまり例がなく、伸び伸びと演奏演示が出来ることに、高い評価を得ている。
- ▼中学校の進路指導に関連して「三年生になってから」ということではなく、一年生のときから直接体験を通してきめの細かい進路指導を行っている。
- ▼具体的には、一年生の職場などでの聞き取り調査、二年生の職場体験、三年生は進路選択に関する講話、そして全校での、ふるさとフォーラムなどである。
- ▼これまで由利郡の岩城町交流会を、今年度は当村が受入当番でもあることから一月八・九日にジュネス栗駒スキー場とホテルプランを会場にスキー交流を行うことにしている。
- ▼本村の児童数の減少実態から、平成九年に椿川小学校と大柳小学校を統合し、教育効果をより高めるよう計画している。
- ▼小規模学校では一人一人に目が届き徹底した学習や生徒指導などができるメリットもあるが、何と云っても多人数で生活し学習することでお互いが磨きあっている学校生活ができるのではないかと確信している。
- ▼平成八年度はそのための準備期間と考え、地域への主旨の徹底を図り、ご理解ご協力が得られてスムーズに統合ができるよう進めて行きたい。
- ▼どうせならば「岩井川も一緒に」とか「全村で一校にしては」という声もあるようだが、教育委員会ではそのことは考えていない。

# いっぱんしつもん

12月定例会の一般質問には、3氏が登壇し

伊勢谷議員は、在宅福祉や小学校統合などについて

富田議員は、食糧費の取り扱いや学生寮の今後などについて

高橋（橋）議員は、林道の改良や成瀬ダム建設などについてそれぞれ村の考えをただした。



小学校児童の減少が著しい（橋川小にて）



伊勢谷政雄 議員

## 在宅福祉に積極的な対応を望む

### 村長⇨新ゴールドプランを大きく取り込みたい

**問** 在宅介護は一人の人が昼夜にわたることが多く、その負担も大きい。

ヘルパーの派遣世帯数と介護を必要とする数を伺う。また、ヘルパー増員計画はどうなっているのか。

**村長** 在宅福祉に村独自の考えはないが、八年度から実施される新ゴールドプランを大きく取り込みたい。ヘルパーの派遣は二十四

世帯で、今後のヘルパーの派遣は村内有資格者の力添えをいただき充実を期して行きたい。

#### 中山間地域

#### 総合整備事業について

**問** これの実施計画では、生産基盤整備が主であって生産力アップに直接結びつく内容が少ない。

生産アップに結びつく内容が必要ではないか。

**村長** 実施計画のなかには農業用排水・農道・暗渠排水などの整備事業がある。

これらの事業は生産アップに結びつくものと思う。五年間で進める事業なので、具体的な提言を示していただければ、やることはやぶさかではない。

#### 今後の稲作に対する取り組みについて

**問** 稲作技術の初期指導の更なる強化が必要でないか。

今後の対策として、早期防除に支援の考えはないか伺いたい。

**助役** 技術指導は、村指導センター・湯沢農業改良センター・農協などと協力し、指導講習を開き、その成果も上がってきている。今後は農家の意欲も大事だと思うので、意識の高揚を図りながら技術指導に力を入れてまいりたい。

防除に対する支援については、経費・時期などの問題などもあり今後の課題とされている。

#### 小学校の今後の方向づけを伺う

**問** 児童数の減少がつづく今日、村では小学校をどのような方向に進めようとしているのか伺いたい。

**教育長** 村では平成九年度から橋川・大柳の小学校統合を考えており、八年度は準備期間と考え、具体的な



多数の傍聴があった一般質問

話をしながら、主旨に賛同  
いただけるよう計画を進め  
てまいりたい。

村としては、最終的には  
地域にとって「統合してよ  
かった」と、そんな反省が  
生まれるように考えている。

### 自然環境保護に対する

#### 取り組みについて

問 村の自然と環境を、将  
来にわたり守り保護して行

くために「みんなで自然や  
環境の保護について考える  
日」を設ける、などの取り  
組みが行政側からあっても  
良いのではないか。

答 村長 村民一人一人が「環  
境を汚さない・壊さない」  
という、モラルが一番大切  
だと思ふ。

名称は別として、村内の  
方々からお聞きしながら考  
えてみたい。

## 常任委員会レポート

産

業

建

### 高速交通の時代を迎え、当面する課題について

す効果に大きな期待を寄せ、  
直面する課題に取り組むこ  
とが必要である。

その課題とは、交通網の  
整備であろう。平成七年に  
は十文字と湯田町へ高速道  
が延びた。

人口の自然減が全国的に、  
そして秋田県も同様に進ん  
で来つつあるなか、村では  
若者定住促進事業でスキ  
ー場の宿泊施設が完成、今後  
は須川高原の宿泊施設建設  
に向かうことになった。  
人口減少ということが、  
高齢化社会そして福祉問題  
に直結していることを考え  
るとき、この事業がもたら

今、交流人口と呼ばれる  
村への入り込み者の増加や  
産業の活性化などに期待が  
集まり、特に「冬季に周回  
のできる道路が必要だ」と  
いう考えにたって、当委員  
会は平成七年八月に、皆瀬

・山内の村議会産業建設常  
任委員会と交流、道路踏査  
を行ったうえ課題などにつ  
いての懇談を行った。  
皆瀬村との峰越し林道は、  
八年度に県道昇格とされて  
現道の改良が期待される。  
山内との三又線は、冬季  
通行に向け両村議会の課題  
として認識を深め、今後も  
継続して実現に向け活動を  
することになった。

委員長 佐藤正次郎

総務教育民生

### ウェルネス事業を進める、山形県最上町

去る十一月十日、常任委  
員会が合同してウェルネス  
プラザ事業を推進している  
山形県最上町を視察した。

この事業は、自らの手で  
より積極的な健康の創造を  
目指す「健康な体・健康な  
心・健康な社会生活の街づ  
くり」を目標に、取り組ん  
でいるものであった。  
そこは、保健・医療・福

社の総合化計画の基に、健  
康センター・病院・高齢者  
福祉センター・温泉施設を  
備えた健康クラブ、などが  
廊下で結ばれている理想的  
な施設であった。  
病院では入院はもとより  
夜間診療も行われ、退院後  
の訪問看護も実施していた。  
特に、夜間診療は日中  
に行けないお年寄りが、仕事  
から帰った若い家族に連れ  
られて受診する。  
若い人達は入浴しながら

診察の終わるのを待つ、と  
夢のようなものであった。  
町ではこの後、リハビリ  
施設の建設計画もあって、  
福祉係・保健婦・ヘルパー  
による、在宅ケアチームを  
作って介護にあたるなど、  
デイサービス事業も実施さ  
れていた。  
村にも「ここまでできな  
くても、近いものが欲しい  
ものだ」と感じて来た。  
委員長 高橋 楯雄

# 村長 必要ないものは全部精査し、予算を組む

## 食糧費全体を見直し、削減を

富田 義行 議員



**問** 食糧費の支出目的に照らし、指摘されている問題点をどう考えているのか。

六年度会計での、県職員との意見交換六件の支出内容と出席者数、金額、懇談場所などを伺う。

各団体との懇談四十八件に国や公共団体はあるか。

国や県職員への付け届けや餞別はないか。

来年度予算編成は全体の食糧費を見直し、未執行分は補正も含め削減を。

この問題に関して重要なことは、自由に知ることの出来る情報の公開だ。条例制定を図るべきだ。

公務員に対する業者からの物品提供が全国的に見られる。村職員は心配ないと思うが、網紀の面で日ごろ心がけていることは何か。

**村長** 本来食糧費とは、会議・式典・接待用の茶菓子弁当代だ。

常識を逸脱した支出は、

していないのでは、と思う。

県職員との懇談には新潟運輸局、増田営林署との二件が含まれ、運輸局とはジュネス栗駒のリフト関係の許認可などで開いた会議だ。

出席者数は村職員も含め五十二人、金額は四十七万七千七百七十三円。場所は栗駒山荘二回・後藤旅館一回・村外では、石松・あずまや、

などの三回である。

公共団体との懇談はない。

国・県に対する付け届けは交際費から支出してある。

食糧費の削減では、必要のないものを検討・精査し、新予算ではその分を大まかに考えた編成にする。

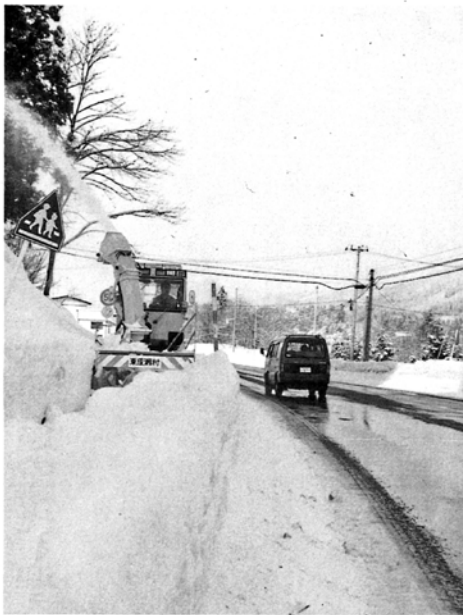
県機関職員などへの餞別は交際費から支出しているが、こういうものはやめる。

お土産も最小限にとどめる。

情報公開条例など、作るべきものは極力早期にやる。

網紀面の指導では、付け届けなど、今の若い職員たちになんかことはない、と自信を持っている。

「親切・丁寧に」「思いやり・いたわり」「意欲をもって努力せよ」を基本にしている。



近年は歩道除雪も重要となっている

**問** 学生寮の、閉鎖予定で関係者への説明の経過は。建物や跡地の処理をどう考えているか。

**村長** 学生寮の、閉鎖予定で関係者への説明の経過は。建物や跡地の処理をどう考えているか。

一番心配なのは通学手段と通学費用だ。これまで、寮に繰り入れていた五百万円に一定額を加え、十月から四月の間の交通費の半額助成措置の実現を求める。

**教育長** すでに、了承していただいたものと考えてるが、冬休み中に父兄会を開いて再度徹底したい。

通学費への援助は、今のところ考えていないので、村の奨学資金制度を活用して欲しい。

**村長** 跡地の処理についての考えは、今はない。

買った当時は坪四千元で二百六十六坪。売ったら、という方もあるが、今は白紙である。



平成7年度でその役目を終える十文字学生寮

**国道ハイパス沿いに  
農産物簡易直売所を**

**問** 予定される岩井川の国道ハイパスに農産物などの簡易直売所の敷地確保を。建設省所管「道の駅」を視野においたもので、観光集客に、一定のプラス要素ともなりえる。

**助役** 工事調査着工時点で補助制度がないかを勉強、工事に付帯したものとして出来るかなどの情報収集が

大事である。提案を、実現することで勉強したい。

**水稲不作被害に  
もつと機敏な対策を**

**問** 水稲の不作に出し、経済組合へ被害申請をさせた。村の、坪刈り調査段階で被害申請への対応を含めた指導を重視するべきでなかったか。教訓を、今後に生かすべきだ。

減収被害農家へ、他町村がとった国保税の減免など機敏な救済対策が必要だ。

**助役** 救済方法については、手をこまねいていただけではなく、模索もし県機関とも検討したが、適切、納得できる対策が取れないままであったことは事実だ。

共済組合の資料では二十六・七％の被害率であり、税の減免条例は総合的に判断して、なじまない。救済は所得申告の時点で考慮しよう、という考えだ。

**村民の目線に立つて  
各種のサービスを**

**問** 役場か開発センターのいずれかの玄関に、自動昇降装置の設置の検討を。岩井川の投票所は階段が

あり、行くことをためらう方がある。学校体育館も含め入りやすい投票所設置へのもう一工夫を。

業者委託以外の村道除雪を、機敏な出動でやって欲しい。出動の指揮システムを伺う。

看沢の国道歩道除雪が、なぜ途中までだったのか。もつと延長し、看沢橋付近まで実施すべきであった。という点で、経過を伺う。生活・環境サイドから、村民・農家を悩ますカメラ虫などの駆除の実施を望む。

虫の出す臭液で衣服が台無しになったという例は度々。子どもの耳にカメラ虫が入り医者にかかった例もある。冬でも雨天でも土の上でゲートボールが出来る建物

が村にあったら、という声にこたえてほしい。すべてを網羅した、行政サービスの総合案内冊子を作り、各家庭に配布することを提案する。

**助役** 庁舎玄関へのエスカレーターなどは敷地などから難しい。引き続き可能な方法を勉強したい。岩井川投票所については、体育館使用など、選管に提案の趣旨を伝える。

村道除雪は、午前三時に五センチメートル以上の降雪があれば三時三十分以降作業を開始、七時三十分まで全作業を終える手順だ。

業者委託も村の職員も同じ体制で勤務している。歩道除雪がなぜ遅れたのか、まだ究明していない。担当課長とも相談し、不都合のないようにしたい。

カメラ虫・屋根付きゲートボール場・総合案内冊子については、防除方法・利用度・全体のスポーツ人口など研究・検討の必要があり、課題としてうけたまわる。

**財務規則と債務の  
繰り上げ償還に関して**

**問** 村財務規則の軽視がどうか、規則どおりの財務運営が行われているか。規則で見直すべきことはないのか、見直すとしたらいつまでに新規規則を定める予定なのか。

多額の地方債のうち、高利な部分の繰り上げ償還を図ることが出来ないか。

**収入役** 財務規則による報告書の添付が、六年度決算まで出来なかったことを、詫げる。見直しでは、助役・課長

専決が出来る規則にしたら、という考えもあるが、平成八年四月をメドにたたき台の作成に着手している。

財政運営は財務規則第六十一条に基づいて、適正に処理している。起債の繰り上げ償還は、市中銀行に返還可能と思われることはあり、財政状況を踏まえ検討している。

**村として団体競技の  
会場誘致の考えは**

**問** 団体の開催にあたり、村としての考えはないか。

**村長** 頑張ろうかな、と思うのは山岳競技ぐらいだ。まだ考える余地はあり、検討したい。

**沖繩の少女暴行事件で  
被害者と知事への激励を**

**問** 米兵の少女暴行事件の被害者と家族を励まし、沖縄県知事へ激励のことは。電報も文書も差し上げないで、大賛成だ。暴行事件はあるべきことではない。しっかりと触って言葉も出ないくらい感じを受けたので、充分趣旨に沿うようがんばりたい。



高橋 檜雄 議員

# 林道・柳沢線を 拡幅改良するべきだ

## 村長＝土地関係などもあるが、調査してみたい

**問** ジュネス栗駒スキー場整備も終わり、今後は夏場の宿泊と温泉施設の集客のためのセールスが重要課題と思われる。

近年、国道三四二・三九七号線を利用する観光客が増えてきた。

須川温泉に来たお客さんから「同じ道路を往復する施設には行きにくい」との話を聞いている。

夏場の来客増を図る見地からも林道・柳沢線を拡幅改良して、利用を図るべきではないか。

**村長** 以前に、この路線をマウンテンバイク競技などで利用するため、調査した経緯がある。

しかし、現在のままではあまりにも急勾配なことから止めている。

今後、夏場の施設活用上必要になってくると思われるので、土地所有者なども含めて再調査してみたい。

### 消防団・遭難救助隊の 今後の活動について

**問** 山の遭難事故に備え、第二分団と第三分団に遭難救助隊が設置されて、捜索活動などにあたっている。

しかし、団員の若返りに伴い、職場との関係などもあって、捜索依頼が来ても対応に時間がかかるケースが増えてきた。

今後は、消防団員と限定せず、少々高齢であっても山に詳しい人、元団員など地理に詳しい者の委嘱を検討する時期ではないか。

**村長** 遭難救助については、第二・第三分団とも各十三名を指名し構成して、救助活動にあたっている。

消防団員は団長指令で出動した場合、災害補償制度があつて、万が一の場合の補償が受けられる。

今後は、そのような場合に備えて一般協力者にも、

団長指令ができるよう地元役員、役場課長なども協議させてゆく。

### 成瀬ダム建設見直しと 諸対策について

**問** 成瀬ダムの建設については調査のほうも大分進んで、建設に明るい見通しがたっていると伺っている。先に、湯沢工事事務所の

方から「年内にダム建設審議委員会が開催される」と伺ったが、今後の見直しと補償問題も含めた役場としての対応を伺いたい。

**村長** 十二月に開催予定の審議会が、二月になると聞いている。

その後に建設に向かっての工事計画ができ、予算要求に入るものと思う。

補償問題や諸対策については計画が明らかになった後でなければ難しい。

今後、建設計画に沿って造林木だけでなく、広葉樹その他いろいろな面での、補償関係が出てくると思う。「村の損」「住民の損」にならないよう、がんばってまいりたい。



コロゲ坂からダムの予定区域を望む



# スポット

## こんな質疑がありました

今回は、提出議案のなかから  
38億9千7百万円あまりとなった  
今年度の一般会計補正予算案の質疑に  
スポットをあててみた



スキーヤーにも好評のホテル・プラン

ジュネス栗駒ハーミットランド事業費の追加などを  
主な内容とする、一般会計補正予算は  
満場一致で原案可決となった。

富田議員 ハーミットランド事業に関する補正予算の内容を説明願う。  
企画課長 設計委託料の補正は、スキー場のホテルや研修センターなどの分と、須川の宿泊施設の基本設計などの分に追加するものだ。  
もう一つの委託料の追加は、スキー場第四クワッドリフト山麓駅周辺に、総合案内看板を作成するための予算である。  
工事費の追加は、スキークラブなどの用具置場の電気給排水工事やホテルの大広間の間仕切りなどを行うための予算である。  
備品購入費の追加は、ホテルのスキー乾燥室やリネン室等の棚などの購入費に充てるものである。  
伊勢谷議員 スキーハウス移転工事とはどんなことか。  
教育委員会総務課長 ジュネス栗駒スキー場のなかにプレハブハウスを設置して、小中学生のスキー用具などを格納していた。

工事で一時移転していたハウスを再移転し、内装工事などを行うものである。  
富田議員 ゴミ焼却炉追加の中身はどんなことか。  
住民課長 ダストハイ型を四台、鉄製を二台追加するものである。  
富田議員 ゴミ収集委託料が追加となった要因は何か。  
住民課長 一般ゴミ・生ゴミ・資源ゴミのいずれも増えており、収集委託の車の運行が増えたためである。  
富田議員 秋田県臓器移植推進協会への出捐金の内容は何か。  
健康課長 全県各市町村の出捐金によって財団法人を設立するものである。

### 臨時議会

去る十一月十五日に臨時議会が招集され  
次の二議案が審議された。

#### 村営スキー場 設置条例を改正

今冬オープンしたホテルプランとスキーセンターを条例に加え、施設の利用料金は上限額を定めておき、その内々で料金設定をする、という内容であった。  
この条例改正は満場一致で原案可決となった。

#### カントリーパーク 造成工事の請負契約の 変更を承認

来年の予定分を先取りし、今年の分に追加して工事をするための契約の変更が、主な内容であった。  
この議案は、満場一致で原案可決となった。

みなさんからの

請願・陳情

このようになりました

十二月定例会に提出された請願一件と陳情九件は、すべて採択とし  
それぞれ意見書も送付することと決定した。

- ▼公立小中高校の学級編成基準の早期見直しに関する陳情  
・秋田県高等学校教職員組合執行委員長 奥村清明
- ▼介護保障の確立と医療年金の改善を求める陳情  
・国民大運動秋田県実行委員会代表 藤田實
- ▼米軍人による少女暴行障害事件に関する陳情  
・連合秋田湯沢地区連絡会議長 加藤忠一

- ▼沖縄での米兵による少女暴行事件に抗議し、不平等な日米地位協定、安保条約、米軍基地の見直しを求める意見書の採択を求める陳情  
・湯沢市平和委員会会長 高橋妙子
- ▼医療・就労・福祉等の充実に関する陳情  
・全日本年金者組合湯沢雄勝支部執行委員長 鈴木甚郎

- ▼消費増税の中止と食料品非課税を求める意見書の採択に関する陳情  
・国民大運動 秋田県実行委員会代表 藤田實
- ▼消費増税の中止と食料品非課税を求める意見書の採択に関する陳情  
・消費税をなくす 秋田県の会代表世話人 船越あき子
- ▼法務局の大幅増員に関する陳情  
・全法務労働組合東北地方本部秋田地方法務局支部 湯沢分会長 藤原博貴
- ▼新たな食糧・農業・農村基本法の制定を求める決議、及び政府への意見書提出に関する陳情  
・秋田県労働農会議 議長 高橋良蔵
- ▼ミニマムアクセス米は、海外援助に向けること。引き続き、国産米による学校給食を求める請願  
・農民運動秋田県連合会 委員長 佐藤長右衛門

# 私もひとこと

## 外から見た東成瀬



東成瀬村商工会事務局長  
阿部 聡 さん  
(増田町在住)

村外から来ている私が、まして二年にもならない者が村の行政や議会について話をするのはどうかと思いましたが、東成瀬村について感じていることを書いてみたいと思います。

私が、この村に勤務して感じたことは大変個性豊かな人が多くいるところだ、ということでした。村長さんをはじめ役場の職員の間がこの個性を活かし「この村をどうすれば住みよい村になるか」を信念をもって実践している。そして、議員の間がそれぞれの特徴を活かし各事業を村に密着させようと後押しをしている。そんな村が東成瀬村なのではないか、と第一印象として感じています。

「住めば都」のことわざがありますが、実際のところその地域に住んでいると、悪いところが目についてきて、良いところがあたり前のようになってくる。これが、人間の心理ではないでしょうか。議員の間が残り三年以上の任期が残っています。私が言うまでもないと思いますが「初心の気持ち」を忘れず、時に流されず「この東成瀬村をより以上の住みよい村にしたい」だと思います。

## 編集室

謹んで新春のお慶びを

申し上げます  
ここ数年の暖かい冬から今年はずっと平年並みの冬となる長期予報が当たり、実際に正月からは風雪と雨の繰り返しで、さらに大型寒波が次々と来た。  
温暖化になってきている地球だから、以前のように冬の豪雪・寒波は来ないだろうと勝手に思っていた。だが、いざこうなると昔を思い出し「自然に甘えてはいられない」と新年早々身の引き締まる思いをさせられた。  
寒い冬ほど、暖かい春を迎える喜びも大きいと言う。雪下ろし、除雪と、ここしばらく大変な時期となるが、お互いに声を掛け合い事故や風邪などに気を付け、これからの冬を乗り切りたいものです。

さらに夏の好天を期待し豊作を念じながら、新年のあいさつとします。

委員 佐藤正次郎